

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272500511		
法人名	NPO法人 流山ユー・アイネット		
事業所名	グループホーム わたしの家(楓)		
所在地	千葉県流山市西深井176-1		
自己評価作成日	令和3年6月24日	評価結果市町村受理日	令和3年8月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

わたしの家で働く職員のうち18人中13人が10年以上のベテランでありその中でも、20年前の開業以来勤続職員は7名にのぼる。その為職員は高齢化しているが、様々な事例を経験している。尚、昨年度もコロナ禍の中感染対策を行いつつ、2件の看取りを終え開設以来看取り件数14件となる。H29年にAIロボットの「眠りスキャン」を導入したことによって、身体状況の把握が出来ることでデータ化されることで看取りに向かう状況変化をとらえやすくなった。また、他事業所より困難事例を任せられ、職員たちもそつなくこなせている。また、そのようなこなせられる雰囲気がある。職員が長く働いている分職員間のアットホームさがあり、そのアットホームさが利用者さんにも影響していると思われる。ケアに関しても開設当初より玄関の鍵をかけない等のホームの理念を理解した上で実践している。地域柄自然に囲まれており、散歩をよくするので散歩中に馴染みの近所の方から声をかけられ、野菜や花などを頂く事も多い。利用者が迷子になってしまった場合や徘徊中の混乱時にも協力して下さる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和3年7月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員誰もが答えられるように、「安心」「尊厳」「信頼」の理念を共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であっても、感染予防対策をとりながら散歩をしているので、近所の方々が声をかけて下さり、お花等を頂くこともある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所に認知症地域支援推進委員を配置して、いつでも相談できるように、市報や認知症ケアパスで周知している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	GH/DY合同で行っているが、今年度はコロナ禍の為、書面での報告という一方的なものになってしまった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護支援課地域密着型施設の担当者に相談したり、認知y総地域支援推進委員を通じて連携をとるようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当GHの身体拘束廃止に関する指針に基づいて年度初めに職員全体で研修及び再確認を行い、行動の自由を意識し、言葉によるスピーチロックをしないように心がけている。玄関の施錠は開設当初より行わず、自由に外に出られるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍の為、全体研修は難しかった為書面による研修及び、日々の申し送り等での話し合いや、職員間で意識するように心掛けている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度はコロナの関係で研修は行えなかったが、現在GH内に成年後見人制度を活用されている利用者の方が2名ほど居る。また、ご家族からの後見人に関する相談も受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナ禍のであっても契約・解約時には通常どおり時間をかけて行っている。また、契約後も疑問があれば常時お受けする旨も伝えている。改定に関しては書面を通じて行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の為今年度は家族会の開催が出来なかったが、面会等を通じての要望や意見は伺えたが、家族同士の交流ができなかったのが残念である。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時や、職員と個別に相談や提案を受け、極力反映できるように心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や能力に応じて給与等に評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為、研修を行うことは困難であったが、日常働きながら、都度トレーニングしたり、指導、また、職員間で互いに向上できるように心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ前は、市のグループホーム連絡会や、入所部会参加で交流を図っていたが、現在は行えておらず、電話等で相互に連絡を取り合い状況報告や相談をしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接での情報収集に合わせて、ご家族にセンター方式への記入を協力していただき、ご本人が少しでも安心できるように入所する前に本人の人生の生活歴等を把握するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前面接や、契約時に入所に至る際の経緯を伺い、その中での家族の心情を共感し汲み取るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所に向けて、本人家族が何を一番必要としているのか、十分に話し合うようにしている。また、本人だけではなく、場合によって入居後の家族のメンタルケアも行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の意思を尊重し、入居者、職員双方が心地よく助け合えるような環境を整えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と家族の築き上げてきた環境を大切に、家族とともにご本人のケアや相談を、面会や、電話、メールで行い共有する努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ前は、面会の制限がなかった為、誰でも自由に訪問できたが、現在は面会が自由にできない為、制限しながらの窓際面会や、電話、手紙等で交流している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コロナの影響もあり、担当者会議の開催ができなかった為、家族に関しては電話や面会の際に意見や意向確認を行った。また、職員からは紹介や直接意見をもらい反映した。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もお祭りに招待したり、時々電話をしてその後のご本人や家族の様子を伺ったり、時には家族の方から相談の電話を受けることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の長年の生活習慣を継続できるように、意向や希望を極力反映できるように心掛けている。また、困難な場合は家族からの聞き取りにて反映するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族にセンター方式シートの記入にご協力いただき、生活歴、なじみの暮らし、入居までの経緯を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の生活ベースを維持しながら随時、身体状況の変化に応じて対応している。日々の心身の健康状態は把握しており、特に変化がある場合は随時家族に報告連絡相談している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナの影響もあり、担当者会議の開催ができなかった為、家族に関しては電話や面会の際に意見や意向確認を行った。また、職員からは紹介や直接意見をもらい反映した。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子や健康状態を含め記録に残し、特に重要な変化や内容に関しては、職員間の申し送りノートを活用して把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時には入居家族の相談も随時受けることもあり、本人のみならず家族の精神的なケアも行っている。ケースによっては地域包括にも協力してもらっている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、現状では行えていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、できるだけかかりつけ医の訪問診療が継続できるように、連携をとっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算により、24時間連絡できるようになっており、ささいな事も常に相談できるような体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A病院は、医師・看護師・家族・職員との連携がとりやすく、直接話し合う機会を設けてくれている。B病院に関しては、医師や看護師ではなく、医療連携室の相談員を通してしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や、看取りが近い方に対して、直接家族と面談をして、今後の方針を書面にて確認し医療と連携をはかり、家族も含め、チームで看取りを迎えられるようにしている。(家族も最期を一緒にかかわることで家族に感謝されている)		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えての対応は緊急対応ファイルをつくり、電話口に設置している。また、利用者の緊急時の個別救急対応情報提供カードを作成し一緒にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震火災の避難訓練は行っているが、実際に避難場所(ホーム外)に避難しなければならない訓練はできていない。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人のその人らしさを受け入れ、個々に応じた声掛けや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば、外に出たい…帰りたい…思いがあれば止めずに本人の思うように出てもらうようにしている。(見守り要する)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事等の一日の基本の時間はあるが、日によって、時間によって気分がのらないこともある場合は本人のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用し、本人らしさを個々に出してもらっている。また、人によってはスカーフを身につけたり、自分で選ぶ方に関しては本人の意思を尊重している。少々ズレは指摘しないようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍の為、調理等を一緒に行う事が出来なくなっているが、間接的な、食器洗い、テーブル拭き、お盆拭き等は感染対策を行い実施している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在利用者さんの身体・認知レベルが多様化してきており、食事量にもばらつきがあるので、個々に応じた完食できる量を提供したり、極力自力で食べられるような提供の仕方を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全員口腔ケアを行い、義歯も外して洗っている。利用者の方によっては、訪問歯科を利用し口腔ケアを行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えがない方に関しては個々の排泄パターンを把握しトイレで排泄できるように心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方に関しては個人の趣好品好品だが、ヤクルト等種類にもこだわり対応している。また、散歩を心掛けるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望によっては、連日入浴することもあり、声掛けをして入りたくないときには無理せず、タイミングをみたり、日時を変えて入浴できるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に午後は少しの時間でも休息できるように促しているが、休まない方もいるので自由にしている。また、夜間穏やかに入眠できるように、入眠前の声掛けは安心できる声掛けをするようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニットリーダーを中心に職員全員が把握できるように、申し送り等を通じて確認している。また、すぐに確認できる様に薬示表を一冊のファイルにまとめて、薬と一緒に管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の自発性を生かしつつ、昔奉公させていた方などは家事が得意なことを活かした役割を持っている。また、食べ物にはなるがご本人の好きだったものを家族に差し入れしてもらったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為家族の支援等による外出は行っていないが、前庭や、ウッドデッキへ気分転換に自由に出られたり、散歩に職員が連れ出したりしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自身で所持したい方に関しては、自己管理できる金額程度にして任せている。自己所持金に関してはホームは管理しない条件。(家族に了承済み)使用も自由にさせている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎日数回ご本人に電話をかけて来られる家族がいたり、かけたい訴えがあった場合はかけてもらっているが、場合によってはトラブルになってしまうので、先に先方に確認をとることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関が好きな方がいるので、その方が居心地よくその場にいられるように、快適な椅子を設置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの数か所に一人になれるように椅子を配置している。また、外で一人になれるように施設もかけておらず、前庭のベンチで自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋は本人家族の好きなように配置してもらっているので、人によっては、家族の写真が沢山壁に貼り付けてあったりしている。仏壇や、昔使用していた化粧台等を持ち込まれている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	例えば歩行不安定な方に対しては、安全に居室から自分で出て来られるように、動線を確認している。また、リビング内も動線を確認するようにしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと